令和5年3月7日　国際物流戦略チーム
資料1－1①

国際物流戦略チーム幹事会について

京都大学　名誉教授
小林 潔司

国際物流戦略チーム　第35回幹事会　開催報告について

○国際物流戦略チームでは、国際物流の効率化を通じた関西経済の活性化を目指し、産・学・官が一体となって各種方策に取り組んでおり、2023年2月2日に第35回幹事会を開催。

○第35回幹事会では、昨年度2022年3月の第18回国際物流戦略チーム本部会合にてとりまとめられた「今後の取組」における『当面の重点課題』を中心にフォローアップを行うとともに、新型コロナウイルス感染症等を踏まえた国際物流動向や最近のトピックスについて情報共有し、意見交換を行った。

国際物流戦略チーム　第３５回幹事会　概要

■ 日　時：2023年２月２日（木）15:00～16:00

■ 場　所：オンライン形式

■ 議　事：

（１）国際物流戦略チーム「今後の取組」の進捗状況について

（２）新型コロナウイルス感染症の影響等を踏まえた国際物流動向及び最近のトピックスについて

①コロナ禍における阪神港のコンテナ物流動向と国際コンテナ戦略港湾政策について

②航空輸送の状況等について

③トラックにおける２０２４年問題について

（３）大阪港夢洲地区の交通対策について

国際物流戦略チーム「今後の取組」の『当面の重点課題』

（2022年3月とりまとめ）

国土交通省　公益社団法人 関西経済連合会

～「今後の取組」を変更～

新型コロナウイルスの影響等によるグローバルサプライチェーンの混乱を踏まえ、

強靭で持続可能な国際物流ネットワークの構築に向けて

以下の４つのポイントを、国際物流戦略チームの**当面の重点課題**とします。

1. Withコロナ時代の国際物流ネットワークの構築

●昨今の激甚化・頻発化する災害や新型コロナウイルス感染症が国際物流に与えた影響から、非常時にも機能する国際物流ネットワークの構築が一層重視されています。物流機能を維持するための防災・減災対策に取り組む他、国際海上コンテナ輸送の多方面・多頻度の直航サービスを充実させ、我が国立地企業のサプライチェーンの強靭化に貢献する国際コンテナ戦略港湾政策のさらなる深化を目指します。

●Withコロナ時代に求められる非接触・非対面型の効率的なデジタル物流システムへの転換に向け、民間事業者間の港湾物流手続を電子化するサイバーポート（物流分野）の普及や、コンテナターミナルのゲート前混雑の解消等を目的としたCONPAS（Container Fast Pass）の導入を目指します。

2. 崩れないグローバルコールドチェーンの構築

●農林水産物・食品の輸出額を2030年までに5兆円とする政府目標の達成に貢献するため、「産直港湾※」制度を活用して小口貨物の積替円滑化施設やリーファーコンテナ蔵置時の電源供給設備の整備を支援し、コールドチェーンの強化に取り組みます。

※ 農林水産物・食品の輸出産地が我が国港湾からの直航サービスを活用した輸出行う拠点となる港湾

●新型コロナワクチン等の輸入が増加し、高品質な医薬品物流の実現への要請が高まる中、医薬品物流に係る国際認証の取得等に取り組みます。

3. 大阪・関西万博に向けた取組の推進

●2025年開催の大阪・関西万博の会場となる大阪港夢洲地区及びその周辺地域における円滑な港湾物流を支えるため、周辺道路の拡幅や立体交差化、コンテナターミナルの物流機能強化等のインフラ整備に取り組みます。

●港湾関係者や物流事業者、その他関係機関との連携により、大阪・関西万博の開催に向けた協力体制を構築し、物流交通対策を通じた交通円滑化を目指します。

4. 国際物流の脱炭素化（カーボンニュートラル）の推進

●我が国の輸出入貨物の99.6％を取り扱い、多くの産業が立地する港湾及び臨海部における脱炭素化を通じて、環境に優しく持続可能な国際物流の実現を目指します。

●脱炭素化に配慮した港湾・空港機能の高度化等を通じて、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにするカーボンニュートラルポート（CNP）を形成する等、新たに環境価値を付加することで世界から選ばれる港湾・空港を目指します。

「今後の取組」のフォローアップ

「今後の取組」 ～『当面の重点課題』の取組状況～

➢ **当面の重点課題１：Withコロナ時代の国際物流ネットワークの構築**

国際コンテナ戦略港湾政策については、2022年に新たに日本海側港湾との国際フィーダーが就航するなどの進捗確認。デジタル関係の施策では、翌週３月13日からNACCSと直接連携されるサイバーポートの機能拡充の状況や、2023年度中の神戸港(PC18)・大阪港(DICT)での本格運用に向けたCONPAS※1の試験運用の状況等を確認。

※1：新・港湾情報システム「Container Fast Pass」の略

➢ **当面の重点課題２：崩れないグローバルコールドチェーンの構築**

港湾分野では、2022年５月に堺泉北港が産直港湾になり、今月末完成に向けたエアーシェルターの整備状況等を確認。航空分野では、関西空港における医薬品輸送の高品質化に向けて、2022年に国際機関による輸送品質の認証※2を新たに８社が取得（計14社）するなどの取組状況を確認。

※2：国際航空運送協会(IATA)が策定した医薬品の航空輸送に関する品質認証プログラム

➢ **当面の重点課題３：大阪・関西万博に向けた取組の推進** *（議題(2)にて報告）*

2022年に此花大橋、夢舞大橋が６車線化するなどの交通インフラ整備の状況や物流交通対策の進捗を確認。また、これらの状況について、2023年１月「第４回大阪港夢洲地区の物流に関する懇談会」にて、情報共有・意見交換。

➢ **当面の重点課題４：国際物流の脱炭素化（カーボンニュートラル）の推進**

港湾・空港分野において、2022年にそれぞれ法改正が行われるなど、各港湾・各空港における脱炭素化推進計画の策定に向けた取組について状況を確認。

意見概要

➢ 物流分野のデジタル化について

サイバーポートについては、NACCSとの直接連携のみにとどまらず、さらなるシステム連携を進め、シームレスにつながる姿を目指していくべき。また、港湾の自動化やデジタル化については、海外港湾の事例も踏まえつつ、しっかりと進めていくべき。

➢ カーボンニュートラルについて

港周辺に立地し、脱炭素に資する具体的な技術を持っている企業としっかりと連携しつつ、検討を進めるべき。

➡ 「今後の取組」の『当面の重点課題』の取組状況については、とりまとめ後の約１年間で、各課題に即した対応が図られていることを確認。今後は、幹事会でのご意見も踏まえつつ、引き続き、各構成員において「今後の取組」を推進。